

令和7年度 福島小学校 学校関係者評価

番号	評価項目	よくできている												できている												あまりできていない												できていない												自己評価	考察(現在の状況における成果◎と課題●)	評価者からのコメント(成果◎、課題●)	判定
		児童				保護者				教師				児童				保護者				教師				児童				保護者				教師																			
		児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計	児童	保護者	教師	合計																				
1	学力向上について	<p>1について</p> <p>◎ 昨年度と比較すると、児童、保護者の評価がほぼ同等であることに対して、教師の評価の割合が上昇した。現場で教えている教師の評価が向上していることは望ましいと言える。また、同じく昨年度と比較すると、保護者と教師の評価の差が小さくなり、似通ってきている。今後、教師、保護者が共通の認識で児童を支えていく上で、好材料と言える。ICTの活用については、PC用ドリルを導入したことで、より充実を図ることができた。</p> <p>2について</p> <p>◎ 昨年度に引き続き「ひなたの学び」について研究を深めることができた。今年度は、「発問後の応答予想からの学び合い」をテーマにチーム別で研究授業等を行った。児童が主体的に「問い」をもち、学習に向かう姿を着実に高めるよう、継続して研鑽を積んでいた。</p> <p>● 1、2、3(学力全般)について</p> <p>◎ 昨年度と比較すると「できていない」という評価は少なくできており改善方向にあるものの、課題は残る。特に今年度に評価項目を変更した「番号3」については、児童、保護者、教師全てで評価が低い。姿勢や集中力などの授業の基盤となる力は学力向上に不可欠であるため、今後も重要事項として力を入れていきたい。また、評価項目3の低水準については評価項目4の「生活を支える基礎的・基本的な行動」の評価が低いことも相関関係にあると考えられる。「生活を支える基礎的・基本的な行動」と「学力向上」を両輪として一体的に育てていく必要がある。以上により、自己評価を2とした。</p>																												4~1	◎ 学級を分けて行う少人数学習は児童の学習ペース合わせられる点で効果的であり、学力向上につながっている。	2																					
		<p>3について</p> <p>◎ 授業に対する姿勢や基盤となる力を高め、授業力向上を図る。</p> <p>☆研修の充実、福小UDの活用、わかる授業</p>																												◎ 児童の興味を引く発問を考え、その応答予想までする授業づくりは素晴らしい。今後も継続してほしい。																							
		<p>4について</p> <p>◎ 近年、低評価が続いており本校の大きな課題である。しかし、昨年度と比較すると今年度、教師の「できている」という評価が40%から56%に上昇しており改善の兆しが見られる。毎月の目標で、スクールワイドPBS(よいところを称賛し共有する取組)に取り組むなど、学校全体での常時指導が効果を上げてきていると考えられる。あいさつ等、児童のよい行動が保護者にも分かる姿となるように、取組を改善しながら継続していきたい。</p>																												◎ 学校外ですれ違った時など、児童から先に挨拶する姿が多くなったと感じる。よくなっていると思う。																							
2	豊かな心の育成について	<p>5について</p> <p>◎ 定期的にアンケートを実施し、福島っ子会議で共通理解を図ったり、配慮の必要な児童に応じた指導・支援を行ったりした。また、今年度新設された教育支援センターと密接な連携を図ることで、不登校傾向の改善につながられた。</p> <p>● 一方で、全ての支援が必要な児童に対して、十分な支援を行うことは難しい現状がある。今後も、限られた人員の中で特別支援コーディネーターを中心にチーム学校として対応していく必要がある。</p>																												2	◎ スクールワイドPBSの取組はとてもよいと思う。スポーツ少年団等の学校外の活動でも、よいところに注目して伸ばすことは浸透しつつある。難しい面もあるが、愛情をもって厳しくすると両立しながら児童の心を育ててほしい。	3																					
		<p>6について</p> <p>◎ 昨年度と比較すると、教師の肯定的な評価が高まったのに対して、保護者の肯定的な評価が下がっている。「子どものよさを生かしたり、考えを尊重する」ところについては、時代や家庭環境の変化により、教師と児童・保護者の当たり前の間に認識の差やずれが生じ、指導と受け取り方に行き違いが生まれていると考えられる。今後は、このような認識のずれを踏まえ、児童のよさを生かし、考えを尊重する指導の充実が求められる。以上により、自己評価を2とした。</p>																												● 家庭の躰が行き届いていないのではないかな。その結果、先生方の負担が増しているように思う。また、児童が自宅等で動画視聴やSNSをする環境が日常化しており、生活習慣や言葉遣いの乱れにつながっていることは心配だ。学校での指導に加え、家庭の教育力の向上が求められていると思う。																							
		<p>7について</p> <p>◎ 昨年度と比較すると、保護者、児童、教師全てにおいて肯定的な評価の割合が上昇した。新設された教育支援センターとの連携を密にし、不登校等の児童へのきめ細かな対応が図られたことや、保護者への連絡用ツールである「安心・安全メール」の効果的な活用が図られたことが要因と考えられる。</p>																												◎ 安心・安全メールでの連絡や欠席等のICTの活用は、きめ細かな対応ができてよいことだと思う。																							
3	体力向上と健康安全について	<p>8について</p> <p>◎ 昨年度と比較すると、児童、保護者の評価こそ同等だったが、教師の肯定的な評価の割合が上昇した。本年度で2年目となった5月実施の運動会が馴染んできていること、昨年度の課題であった水泳の雷注意での未実施が、雷ナウキャスト(リアルタイム落雷警報)を活用し安全上の改善が図られたこと、健康調査の結果から保護者の面談を実施し啓発が図られたことが理由として挙げられる。</p> <p>● 体力向上の面では、学校全体として体力テストの結果は高いとは言えない。現在、授業や委員会等で運動の日常化の取組の充実を図っているところである。さらに、家庭や地域スポーツとの連携を図ることで、体力向上を図ってきたい。</p> <p>以上により、自己評価を3とした。</p>																												3	◎ 体力は何をするにも必要不可欠なものである。福島小児童の課題である「長座体前屈」と立ち幅跳びの対策を図ってほしい。また、学校全体で短時間でできるような継続した取組があると効果的だと思うので、よりよい取組を行ってほしい。	3																					
		<p>9について</p> <p>◎ 昨年度と同様の評価結果であった、くしま学の学習では、黒瀬水産や道の駅くしま、風力発電等を見学するなどの学習に取り組んだ。小中高一貫教育においては、6年生と中学生の交流学習や5年生と高校生のキャリア教育学習、きんかん収穫学習を行った。また、保護者による6年生へのキャリア学習(福カフ)や読み聞かせ活動など、福島小ならではの学習が充実していると言える。今後は、それらの活動のよさを保護者により啓発し家庭・地域を巻き込んだ相互教育にさらに進展させていきたい。</p> <p>以上により、自己評価を4とした。</p>																												◎ 地域で子ども達が楽しそうに遊んだり学んだりしている姿をよく目にする。読み聞かせをした際には、主体的に、集中して聞いてくれてうれしかった。たくさん体験・交流活動は子ども達を大きく育てるので、今後も続けてほしい。																							
		<p>10について</p> <p>◎ 市間の市に一校しかない福島高校との交流を積極的に行っていた。また、市内の小学校との交流も積極的に行っていた。</p>																												◎ 市内の小学校との交流も積極的に行っていた。																							
4	市の教育の動向への対応	<p>11について</p> <p>◎ 市間の市に一校しかない福島高校との交流を積極的に行っていた。また、市内の小学校との交流も積極的に行っていた。</p>																												4	◎ 市内の小学校との交流も積極的に行っていた。	4																					